



鍛鋼品における技術と品質のパイオニア

株式会社 小野原鉄工所

「地場産業を知ろう」 第13回 学生レポート

市民の方に地場産業を知ってもらおうと、大学生が市内の企業を取材しました。今回は、創業百年を迎えた株式会社小野原鉄工所をご紹介します。

トップインタビュー



代表取締役
安永充孝さん

○創業以来、自由鍛造一筋と伺いました。まずは鍛造について教えてください。

小野原鉄工所の事業内容は、鍛造による「鍛鋼品の製造」です。鍛造というのは鍛冶屋の延長です。現在では、人間の手ではなく、プレス機という機械を使って力を加えて成形しています。昔の鍛冶屋もそうですが、私たちは「鉄（てつ）を鋼（がね）にする」ということを行っています。鉄の良いところを引き出して、用途に合わせた質の高い鋼へと鍛えていくことが鍛造です。鍛造して作られたものは鍛造品と言われますが、弊社では最終的に「鍛鋼品」を作ることを目的としています。

○これまでの歩みと貴社の製品について教えてください。

大正7年（1918年）に、直方駅近隣に、個人経営の鍛造専門工場として小野原鉄工所を創立しました。今年の5月5日には100周年を迎えます。

終戦後、工場を現在の場所（赤地）に移動させ、時代のニーズに合わせて様々な機械を導入したり、認定を取得したりしながら現在に至っています。小野原鉄工所は同一製品の大量生産ではなく、お客様の要望・発注に合わせて製品を作って販売しています。お客様は国内に留まらず、海外にもいらつしやいます。

○主な取引先企業には、私たち学生でも聞いたことのある有名企業が並んでいますが、貴社が選ばれる理由・強みはどのようなところであると思いますか。

私たちは経営理念に「信頼性の高い良い製品を早く適性価格で、お客様に提供する」を掲げています。これまでの経験と実績を踏まえながら、難易度の高い製品を作ってきましたが、今までクレームというものをほとんど受けたことがありません。これは弊社の製品を、満足のいく品質で安全にご使用いただいていることの裏返しだと思います。そして製品の品質の高さが信頼にもつながっているのだらうと思います。まさに、経営理念が弊社の強みになっていると思います。

○会社として、特に大切にしているポリシーやモットーを教えてください。

ポリシーは「未来志向のイノベーション（技術革新）」です。生産技術というのは日々変革しており、その変化に対応できなくては、企業として発展していきなとと考えています。モットーは「誠心誠意」です。お客様に対して偽りなくまごころを持って接する、依頼された製品

○社員の方々と関わるうえで、心がけていることを教えてください。

社員を信じ、任せることです。私の社長就任当時は大変な時代で、加えて人手不足でした。その際、私はベテランの先輩社員に助けてもらいました。この経験を踏まえ、就任時から変わらず前述のことを心がけています。そして反対に、社員からは社長として、経営者として信頼されるように努めています。

○社長として、今後考えていることを教えてください。

世界の製造業は現在、高性能・高品質・高付加価値の製品を低価格で提供するよう努力しています。私はこの時代の中で今までのノウハウとスキルを活かし、さらに新しい技術開発に取り組んでいます。また直方を鉄産業において、「直方の鉄工所に話を持っていけば何とかなる。」というまちにしたいと思っています。社員に対して適した環境のなかで、それ相応の収入があって、安定した生活をさせてあげたいと考えています。



超音波を使った内部亀裂検査をしているところ

○これから就職する学生・若者にメッセージをお願いします。

社員に直撃取材



営業課長
古野秀章さん

○どのような業務に携わっていますか。

営業部に所属しており、お客様のお話を聞いたり、発注を承ったりします。また事務作業やその他の業務も一部兼務しています。

○この仕事を選んだ理由を教えてください。

大学を卒業して関東で働いていたのですが、東日本大震災をきっかけに、祖父母や家族のことを考えて地元である直方に帰ってきました。前職でもものづくりに携わっていて、その楽しさを知っていたため、直方でもそういった業種の仕事がしたいと考えて小野原鉄工所を選びました。

○業務を行う上で心がけていることを教えてください。

お客様は営業職である私を通して弊

社と接しているため、私の対応によって小野原鉄工所に対する印象が決まってしまうと思います。そのため、言動には特に気を付けています。また製造現場にも赴き、現場の社員ともコミュニケーションを取るようにしています。

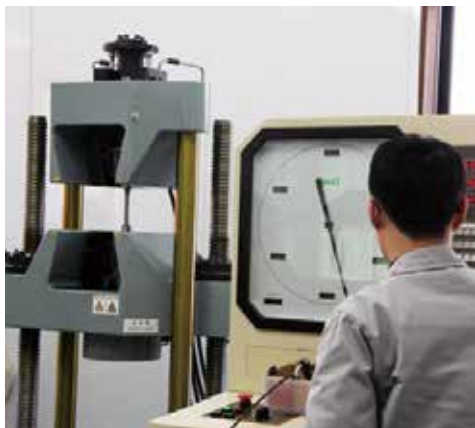
○ご自身が感じる小野原鉄工所の誇りを教えてください。

お客様からの厚い信頼があるのは、先輩方が積み重ねてきた実績や、技術力があることだと思っております。そのような環境が整っている会社で仕事ができていることに誇りを持っています。

○今後携わってみたいことや将来の目標があったら、教えてください。

入社して5、6年経ちますが、まだまだ一人前とはとても言えず、勉強不足を痛感することもあるので、知識・能力を高めるためにこれからももっと努力していきたいと思っています。そして、「この人なら大丈夫」と、お客様から現場からも信頼される営業マンになりたいと考えています。

どれくらいの強度があるか
張力測定をしているところ



取材を終えて



工場見学では、見たことがないものばかりでとても面白かったです。特に、鉄がちぎれるのには驚いてしまいました。インタビューでは、社長の「信頼」という言葉に重みを感じ、社員の方々に大切にしているのが伝わってきました。

有田 美月保（北九州市立大学 3年生）



初めてのインタビューで大変緊張しましたが、社長や社員の皆さんがとても気さくで、なごやかな雰囲気の中インタビューを楽しむことができました。製品一つひとつ、従業員一人ひとりへの思いが伝わってくる職場でした。普段生活している中では触れることのできない鉄工所内の雰囲気や風景を目の当たりにすることができ、とても良い経験ができたと思います。

吉村 健吾（北九州市立大学 3年生）



熱心に工場を案内してくださった
常務取締役統括部長の石松英生さん